

入学前教育での MOOC導入

大阪産業大学 高井由佳

大阪産業大学とは

- 大阪府大東市に位置する総合私立大学
- 新入生の半数が推薦入試の合格者
- 理系学部として工学部とデザイン工学部がある



講演者の所属

●デザイン工学部 情報システム学科

Faculty of Design Technology
デザイン工学部



デザイン×テクノロジーの学びから
人と社会の幸福を追求

どんな人がどのように使い、それを使うことでどのような快適さや幸せを実現できるのか。
人の気持ちを考え、その気持ちをカタチにするモノづくりの力を身につけます。

情報システム学科※

建築・環境デザイン学科※

▶ 環境理工学科

新設

JMOOC利用にあたっての学内環境

- 大学で通信教育を行った実績はない
- 動画のみの通常の講義は行っていない
- 学内LSMは構築されているが、動画配信を想定した設定になっていない

情報システム学科での初年次教育の問題点

- 推薦入試合格者が多いため、学生間の習熟レベルの差が年々拡大傾向にある
- 推薦入試合格者の中には、学科での教育内容をよく理解しないまま入学している学生がいる
- 文系学生の受験を可能としているため、学生間の理系センスの差が大きい



- ✓ 1年生の授業進行の難しさ
- ✓ 離学者の増加

大学としての教育の問題点

- 現在の学生と保護者世代との大学教育や就職活動の変化が保護者に浸透していない



- ✓ 入学後の勉強時間に対する認識の相違
- ✓ 就職活動に費やす時間に対する認識の相違

問題解決に向けて 1

- ✓ 1年生の授業進行の難しさ
- ✓ 離学者の増加



- 推薦入学者に向けた、情報システムの基礎知識を伝える学科独自の入学前教育を行いたい
- 学生・生徒が大学入学後、卒業までの生活を知り、情報システムを学ぶ大学生としての心構えを持ってほしい

問題解決に向けて 2

- ✓ 入学後の勉強時間に対する認識の相違
- ✓ 就職活動に費やす時間に対する認識の相違



- 保護者が現在の大学入学後の生活を知り、心構えを持ってほしい

情報システム学科の作りたい教材

- 推薦入学者に向けた、情報システムの基礎知識を伝える学科独自の入学前教育を行いたい
 - 情報システムのリテラシーを伝える教材
- 大学入学後の生活を知り、心構えを持ってほしい
 - 大学とは何で、どんな生活をするのかを伝える教材
 - 大学での勉強と実際の仕事を繋げる情報を伝える教材

教材制作スタッフ

- 教材作成：初年次教育に関わる教員3名
- 出演：学科の若手教授3名＋教材作成スタッフ3名



教材制作スケジュール

2015年								2016年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
JMOOC 入会 申請		JMOOC 入会 承認 講座 作成 目的 決定	他 大学 訪問 各週 タイ トルの 決定	各週 コン テン ツの 決定	原稿 作成	原稿 作成	動画 撮影 音声 録音 PV・ コン テンツ 確認	コン テンツ 確認 字幕 作成 公開 用 資料 作成	字幕 作成 と 確認 テスト 問題 確認	メール 配信 2月 16日 開講

コースカード
選定

PV公開

講座コンテンツ
提供申請書提出

メール原稿
テスト問題
アンケート原稿
修了書サイン
etc.....

役割分担

2015年								2016年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
JMOOC 入会 申請 高井		JMOOC 入会 承認 講座 作成 目的 決定 教材	他 大学 訪問 教材 各週 タイ トルの 決定 教材	各週 コン テン ツの 決定 教材	原稿 作成 W0,2: 高井 W1,4: 山田 W3: 高橋 W2-3~5: 各教員	原稿 作成	動画 撮影 音声 録音 PV・ コン テンツ 確認 高井	コン テンツ 確認 高井 字幕 作成 学生 公開 用 資料 作成 高井 山田	字幕 作成 と 確認 学生 テスト 問題 確認 高井	メール 配信 高井 開講

業者委託

講座作成にあたっての壁

JMOOCへの入会は、全学的な取り組みとして
大学組織からのトップダウン発進ではなく、
学科からのボトムアップで発進

- 講座作成予算がない
- 学内事務の協力者がいない

講座作成予算の捻出と講座作成の工夫

- 講座作成予算がない



- 当初はJMOOCからの助成金60万円で作成スタート
- 低予算で作成する工夫
 - 自撮りキットの使用の検討
 - 動画コンテンツの最低限の使用
 - 音声＋スライドアニメーションでの講義進行
 - 音声録音および編集の自校での実施

学内協力者の確保

- 学内事務の協力者がいない



- 講座内容および公開に関係する部署の課長に
その都度内容を説明し、協力を依頼



- 学内でのJMOOCの周知が進んだ

ボトムアップ方式の講座運営のポイント

- 講座運営管理者と出演者は分ける
→ 講座運営管理は思った以上に仕事が多い
- 初年次教育等、教員の専門性に依らない
内容であれば、学科の教員全員で講座作成を
分担する
→ 1年で1Week分ずつでもコンテンツを
蓄積できれば、新規開講の道筋が見える

初年次教育中心の講座を開講してみても

- 推薦入試受験の入学予定者には、講座の受講を案内したが、実際の受講者数は半分程度だった
- 大学内でアクティブラーニングへの注目が集まっており、他学部の教員から問い合わせがあった
- オープンキャンパスや高校への出張講義で使用するコンテンツとして、学科内ではJMOOCコンテンツの利用が定着しつつある

今後の展望

- 年2回、夏季と冬季に開講し、入学希望者への入学前教育への定着を図る
 - 夏季：オープンキャンパスでの活用
 - 冬季：入学前教育での活用
- オープンキャンパスに訪れた保護者への広報活動を行う
- 学内の保護者懇談会でコンテンツを視聴できる時間を設ける